

KSTNET WEB版 2003年9月号

1.新編集部あいさつ

今月号より会報の編集をさせていただくことになりました、メディカル・カレッジ青照館の浜下、小堀です。よろしくお願ひ致します。これまで編集委員をされていた先生方、本当にお疲れ様でした。編集委員をお引き受けして、8月に会報を発行する予定だったのですが、なにごん要領を得ずに9月になってしまいましたことを、お詫び申し上げます。会員の皆様方に、楽しみにしていただけるとような会報を目指してがんばりたいと思います！

2.言語聴覚士会新会長あいさつ

熊本県言語聴覚士会会長
熊本託麻台病院 小菌真知子

1999年9月に発足した熊本県言語聴覚士会は、来月でちょうど満4年になります。

会の発足からご尽力いただいた前小林利弘会長の後任として、会長をお引き受けすることになりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

言語聴覚士会という歴史の浅い職能団体をまず会として十分機能させていくことが第一の仕事であると思っています。そのためには、言語聴覚士としての各会員の思いを会の運営に反映させていくことに、全力を尽くしたいと思っています。

早速その第1歩として、総会後の懇親会で出た「自分自身も経験が浅いのに、新人の指導をしなければならない」「一人職場で相談する人がいない」などの問題点から取り組むことにしました。

県士会のプロジェクトとして、「新人教育・一人職場に関する調査」を行いそれに対するサポート体制を作ることが7月の理事会で決まりました。近日中に各会員にアンケート用紙が行くことと思いますので、ぜひ、日頃思っているご意見をお寄せください。調査の結果から、県の言語聴覚士会としてできることを検討していきます。

私自身の報告としては、会長を引き受けてから、他の医療・福祉関係の会議に出席し、他会の会長の方々と意見を交換する機会が増えました。そのなかで思うことは、当たり前のことですが「情報を発信しないと伝わらない」ということです。熊本県医療福祉団体協議会では、「言語障害者のことを知っていただきたい」という私の小さな提言に皆さん耳を傾けてくださり、もっと多くの情報がほしいというご意見をいただきました。また、積極的に企画を考えてはどうかという流れもあり、まずは熊本の医療・福祉・保健関係の職種の方々に、言語聴覚士の仕事について理解していただけるよう努力したいと思っています。

その手始めは、当会の仕事内容を説明したパンフレットを各関連団体にお送りしました。会員の方々にも言語聴覚士の仕事を知らせるために利用していただけるよう、今年度5000部を印刷しましたので、必要な方は事務局までお申し出ください。総会での御挨拶でも申し上げましたが、会長の仕事として、情報の交通整理の役割を積極的にしていきたいと思っています。会員からの声を吸い上げ、会のなかで整理し実行すること、全国および県外の各言語聴覚士団

体との連携をとること、県内の関係機関との連携を深めその情報を会員に還元すること。このようなことの積み重ねが、会員各自の資質向上につながり、それが言語聴覚障害者の利益に貢献することと信じています。

会員一人一人の行動も必要です。日本言語聴覚士協会の都道府県士会に登録する時期が近づいています。熊本県士会として登録するためには、会員が全国組織に入会していることが必要条件です。日本言語聴覚士協会に未加入の方は早めに入会してください。

秋ぐらいから、ぜひ各ブロックが動き出せるようサポートしていきたいと思います。

言語聴覚士会を前進させるエネルギーは各会員の中にあります。会長のホットメールもぜひご活用ください。(kozono315@msn.com)

今後の会員の皆さんとのコミュニケーションを楽しみにしています。

3.第5回熊本県言語聴覚士会総会報告

事務局長 中村 雅己

去る6月21日（土）、今年は熊本交通センターホテルで総会が開催されました。たくさんの議案が提出され、新役員をはじめ、今年度の活動方針等が無事決定しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

参加者：71名（委任状33名）

決定事項

<新役員>

会 長 小藺真知子（熊本託麻台病院）

副会長 丸内 春美（熊本県ひばり園）

副会長 三浦 真弓（熊本機能病院）

事務局長 中村 雅己（熊本託麻台病院）

<理事>（旧運営委員）

青木 由香（くまもと成仁病院）

折口 直美（熊本労災病院）

黒川 一也（メディカルカレッジ青照館）

柿山 朋子（熊本県福祉総合相談所）

坂野 成美（熊本回生会病院）

下田 祐輝（江南病院）

城野 一代（熊本市立黒髪小学校）

三浦 真弓（熊本機能病院）

宮本 恵美（菊南病院）

横山 典子（山鹿温泉リハビリテーション病院）

山口 信（ニュー天草病院）

<監事>

中嶋 斐子

本村富士子（江津湖療育園）

<規約改正>

- ・運営委員から理事に改名することとなった。
- ・準会員を削除することとなった（現在、準会員の方は賛助会員に移行することとなった。）

<選挙細則>

選挙細則を決定した。

この他、今年度からは5つのブロックを設け、連絡、連携を取りやすくするとともに、ブロックごとの活動も行っていくこととなりました。各勉強会にも予算がつき、充実が図られました。詳細は、お手元の総会資料でご確認ください。

これから、恒例の熊本市健康フェスティバルや、失語症のつどいの時期を迎えます。また、県士会の正会員の7割以上が協会の正会員であることを達成した時点でS T協会地域職能組織参画するこになっております。今後も皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

3.ブロックだより

8月29日金曜日、本渡市内の料亭「いけす料理山本」で西部ブロック懇親会が開かれました。ブロック長の山口先生（ニュー天草病院）を始め、ほとんどの西部ブロック県士会員全員が参加する、盛大な会となりました。まず自己紹介をした後、簡単な会議を設け、山口先生を中心に連絡網、学習会の予定について話し合いました。でも、目玉はやはり天草の新鮮な魚ですね！

西部ブロックは

若さでがんばります！

よろしくお願いします！

西部ブロックは、三角町の青照館を除いてはほとんどが本渡市近辺なので、熊本市内で行われる県士会の活動にはなかなか参加が難しい状況にあります。ブロックを情報交換の場として活用していけたら良いのではないかと思います。

（文責 p}下）

4.江津湖療育園福祉機器展報告

メディカル・カレッジ青照館

S T学科4年 中村 知香

私が江津湖療育園で臨床実習をさせていただいた時期の中頃、6月7日、8日の2日間に渡り、第7回「福祉機器展」が開催されました。私にとっては初参加の福祉機器展であり実習生という立場からの参加でした。

実習生ということで、私達は1週間前の準備の段階から携わることができました。本村先生、田川先生の指導のもと、スイッチの確認や介護用品（マーナ製品）などのチェック、パネルの製作など準備を行ってきました。

準備の段階で、スイッチなどのAAC機器に触れていくことで、自分が知っていたと思っていたスイッチの名称や使用方法、VOCAの使い方などに改めて携わることができたと思います。また、コミュニケーション機器といっても幅広い分野があることがわかり❖ました。今ま

で見てきたのはほんの一部で、自分の発想次第で幾通りもの使い道があるということ、利用者の方から教えてもらいました。

この福祉機器展で一番心に残ったのは、業者の方達の存在でした。どういうものがあると楽になるのか、楽しめるのか、コミュニケーションがとりやすいのかということ、常に考えておられ、利用者の方々だけにではなく、私達にも伝えやすいよう努力されているのがわかりました。そういう業者の方々、スタッフの方々

を見ていると、STの役割の1つとして、業者の方々と協力して、信頼関係を築き上げることもすごく重要になるのだと感ずることができました。

福祉機器展では、色々な機器に触れることそのものが、一番自分の勉強になると考えていました。しかし、本来なら当日のスタッフとしてしか関わることのできない出来事に、準備から本番まで携わることができたことが何よりも貴重な経験だと思います。今の新鮮な気持ちを忘れずにがんばっていきたいです。

5. 職場から新人さん紹介

山鹿温泉リハビリテーション病院
齊藤 佑美

私がSTの資格を取得したのは昨年のことになります。というのも私はSTの資格を取得後、昨年の5月から他県の病院に勤務することになりました。リハビリ全体の開設ということもあり不安と期待を胸に入職しました。しかし、現実には厳しくPT・OTがいない中STを周囲に理解していただくのが難しく、もう一度STとして勉強し直したいという気持ちが強くなり、短い間の勤務でしたが退職することにしました。その後母校の先生の紹介で先輩STがいらっしゃる山鹿温泉リハビリテーション病院に今年の4月から勤務することになり、そして現在に至ります。

入職して約4ヶ月が経ち、環境も大きく異なりますがリハスタッフが揃った環境でSTとして勉強することができ毎日充実した日々を送っています。今後も県士会の勉強会等に積極的に参加しながら学んだことを訓練に活かし患者様に貢献できるSTになりたいとおもっています。今後とも宜しくお願いします。

6. 本の紹介

菊南病院の大塚裕一先生、宮本恵美先生が6月に出版されました。100種類のゲームは絵入りでわかりやすく、障害別に7つに分類し、難易度を4段階で表示してあります。アレンジ方法も記載してあるので、ゲーム数は約380通りにも及びます。医療従事者のみならず、学生やボランティアの方でも実施できるよう、教示方法、注意点も記載してあり、職場にぜひ1冊の便利本です！

「高次脳機能障害のグループゲーム集」金原出版 3600円（税別）